

Ⅱ 道徳の時間を充実させる指導のポイント

道徳教育の要としての道徳の時間は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を補充、深化、統合する時間であり、年間指導計画に基づき、児童生徒や学級の実態に即して、道徳の時間の特質に基づく適切な指導を展開しなければなりません。そのために、以下のような道徳の時間の指導の基本方針を確認することが大切です。

- (1) 道徳の時間の特質を理解する
- (2) 信頼関係や温かい人間関係を基盤におく
- (3) 児童生徒の内面的な自覚を促し、未来に夢や希望をもてるようにする
- (4) 児童生徒の発達や個に応じた指導方法を工夫する
- (5) 道徳の時間が道徳的価値の自覚を深める要となるよう工夫する
- (6) 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する
- (7) 児童生徒と共に考え、感動を共有し、学び合うという姿勢をもつ

本書の活用について

本書は、道徳の時間の充実をめざして、「平成20年度道徳授業セミナー授業者」及び「平成19・20年度道徳教育実践研究事業推進校」から提供いただいた小・中学校における取組をもとに作成したものです。

本書では、次の3点から実践事例を整理し、掲載しました。

- (1) 資料を活用するポイント
- (2) 道徳授業を工夫するポイント
- (3) 道徳教育を推進するポイント

各学校では、これらの実践事例を参考にして、児童生徒の実態や学校・地域の特色に応じて、指導の内容や方法をさらに工夫してください。

なお、「いのち・なかま・やくそくを大切に作る心を育む学習プログラム」を活用した実践も紹介しています。(実践事例の中で、「学習プログラム」と明記)

今後、この学習プログラムを道徳の時間の年間指導計画に位置付けるなどして、積極的に活用してください。

(1) 魅力的な教材の作成（小学校）

道徳授業における児童の主体的な学びを引き出すために、地域の魅力的な教材を作成してみたいのですが、どのようなことを心がければよいですか。

地域の特色を生かして、先人の伝記、自然、伝統と文化などを題材として情報収集をし、ねらいを明確にした上で教材化を図るなどして、魅力的な教材を作成することが大切です。

実践事例の紹介

1 児童の実態から、教材のイメージを明らかにする

- 道徳の時間の年間指導計画をもとに、児童の実態を重ね合わせて、内容項目を決めた。
- 教材の内容に主な学習活動や関連的な指導等も含めて、授業の大まかな流れを考え、教材のイメージを明確にした。

2 地域に出て取材・情報収集をする

- 事前に地元出身の教職員や保護者から情報を収集しておき、取材相手をリストアップした。
- 取材相手が決まったら、事前に承諾をもらい取材に出かける。インタビューの内容も、授業の流れを意識してあらかじめ整理しておいた。



3 よりよい教材となるよう推敲する

- 起承転結や主発問、話者などを考え合わせながら、インタビューした内容を文章化した。
- 作成した教材が、児童の実態に合っているか、また、ねらいを十分に達成できるものであるかなどについて、他の教職員とも意見交換し、加除修正をした。



魅力的な教材の作成

- ◎ 人間尊重の精神にかなうものやねらいを達成するのにふさわしいものなど、道徳の時間に用いられる教材の具備すべき要件を考慮して、作成しましょう。
- ◎ 地域の特色や教師自身の感動を大切にして、題材を選びましょう。
- ◎ よりよい教材にするために、資料の山場がはっきりとするように修正を加えたり、提示の仕方を工夫したりしましょう。

(2) 複数の資料の有効な活用（中学校）

生命尊重というねらいに迫るために、展開の段階で複数の資料を用いたいと思いますが、どのようなことを心がければよいですか。

道徳授業での指導をより効果的にするために、複数の資料を用いることなども考えられます。その際には、それぞれの資料の特質を生かして、関連付けて扱うことが大切です。

実践事例の紹介

学習プログラム：中原中也「また来ん春……」を用いた実践

1 複数の資料の中でも、中心的な資料をあらかじめ決めておく

- 資料1：中原中也の詩「また来ん春……」
- 資料2：まど・みちおの詩「うさぎ」

いずれも「命の大切さ」や「命のかけがえのなさ」に気付かせる作品である。本時では、ねらいに迫るために、中原中也の詩を中心的な資料として用いることとし、まど・みちおの詩を関連付けて扱った。

2 複数の資料の扱い方を検討する

- 「うさぎ」の中で用いられている言葉の意味を考える。
- 「また来ん春……」を読み、肉親の死について考える。

今回の授業では、展開の段階で上記2点の活動を位置付けた。どちらも自分の命も他人の命もかけがえのないものであることを生徒に気付かせることを目的とした。複数の資料を扱う場合、それぞれの資料を扱う目的をはっきりさせ、学習過程に位置付けることが大切である。

3 複数の資料を関連付けてねらいに迫る

- 主題名：なくなったわが子への思い

生徒の実態を考慮して、わが子が亡くなることにふれる前に、まどみちおの詩「うさぎ」で「かけがえのない命」について考える時間を確保した。その後、わが子を亡くした中也の悲しみに共感させ、ねらいとする「自他の命の大切さ」に迫ることができるように関連付けて指導した。



複数の資料の有効な活用

- ◎ 道徳授業のねらいに迫る資料を準備し、それぞれの資料の内容を十分に吟味して活用しましょう。
- ◎ 生徒の実態に応じて、資料の提示の仕方や学習活動の内容などを工夫しましょう。
- ◎ 相互の資料の違いや共通点に気付かせるなど、ねらいに迫るための手だてを工夫しましょう。

(3) 資料の特質を生かした活用（中学校）

道徳授業で扱う資料にはいろいろな特質がありますが、それぞれの資料を効果的に活用するためにはどのようなことを心がければよいですか。

資料の特質に応じて、登場人物への共感を中心とした展開だけでなく、資料への感動を大事にした展開、迷いや葛藤を大切にしたい展開など、一層工夫していく必要があります。

実践事例の紹介

1 感動的な資料で、生徒の心に残った場面をもとに授業を展開する

長文の読み物資料には、感動場面や葛藤場面が多く含まれているが、生徒によって心に残る場面は異なることがある。また、同じ場面を選んだとしても、生徒の感じ方や考え方が同じとは限らない。このような資料を扱う場合には、生徒の多様な感じ方や考え方にふれる機会をもつことが大切である。そのために、例えば、机の配置をコの字型にして、互いに反応を確かめながら話し合ったり、感じたことや考えたことの根拠を確かめ合ったりするなどの工夫も必要である。

2 迷いや葛藤を扱った資料で、価値判断の違いに着目させ授業を展開する

登場人物が価値判断に迷っている資料では、どのように行動すべきかについて、生徒の感じ方や考え方が異なることがある。また、同じ意見であっても、その根拠が同じだとは限らない。このような資料を扱う場合には、生徒に、登場人物の行動について「賛成か、反対か。」と問い、自分の立場を明らかにさせることが大切である。そのために、例えば、机上のプレートで立場を示して、互いの意見を発表しながら、感じたことや考えたことの根拠を吟味するなどの工夫も必要である。



資料の特質を生かした活用

- ◎ 生徒の受け止め方を考えて、授業展開を工夫しましょう。
- ◎ 資料に応じて、学習活動や学習形態などの工夫をしましょう。
- ◎ 県教委が作成した「いのち・なかま・やくそくを大切にすることを育む学習プログラム」や地域にある資料などから魅力的な教材を見つけ、道徳の時間の年間指導計画に位置付けて活用しましょう。

(4)ねらいに迫る補助資料の開発（中学校）

ねらいに迫るために終末の段階で補助資料を使いたいと思いますが、どのようなものを資料として準備すればよいですか。

中心的な資料で学んだ後で、生徒の考えを整理するために、補助資料を使うことも有効です。生徒の心に響く内容であるかどうかを十分に吟味して準備することが大切です。

実践事例の紹介

1 「主題：生命の尊重」で詩を用いる 学習プログラムを用いた実践

- 「いのちのバトン」（相田みつを）

学習プログラム「命の河」を用いて命の尊さについて考え理解を深めた。その後、詩「いのちのバトン」を読むことで、つながってきた命の重みを感じた。中心となる資料「命の河」と内容が似ており、道徳的価値の自覚を深めることができた。

2 「主題：向上心」で有名人の言葉を用いる

- イチロー選手の作文

中心的な資料で、夢をもつことや努力することの大切さについて考えた。その後、イチロー選手が小学生の時に将来の夢について書いた作文を提示した。彼の努力と世界で活躍する現在の姿を紹介し、夢を実現しようとする前向きな生き方について考えを深めることができた。



3 「主題：真の友情」で世界の格言を用いる

- 「友情は保つより結ぶほうがやさしい」（ハンガリー）
- 「魚は水なくして生きられず、人は友情なくして生きられない」（シベリア）
- 「1万円の黄金はたやすく手に入れることができても、一人の親友に出会うのはむずかしい」（中国）

中心的な資料で友だちと助け合うことの大切さについて考えた。その後、友情にかかわるいくつかの格言を紹介して、「新たに気付いたことや考えたこと」を書く時間を確保した。新たな視点から道徳的価値をとらえることができた。

ねらいに迫る補助資料の開発

- ◎ 教師自身が感動を覚えるような魅力的な詩やメッセージ等を集めておきましょう。
- ◎ 収集した補助資料を内容項目ごとにまとめておきましょう。
- ◎ 生徒の実態に応じて、補助資料を活用するねらいや方法を明確にしましょう。

(5) 視聴覚機器の活用（中学校）

登場人物の歴史的背景など、中心的な資料の理解を容易にするために視聴覚機器を用いた
と思いますが、どのようなことを心がければよいですか。

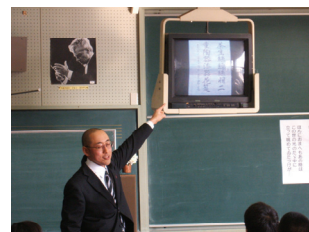
テレビやビデオ、録音テープ等、視聴覚機器を有効に活用することで、生徒に興味をもた
せたり、感性に訴えたりして、登場人物の歴史的背景などの理解を深めることができます。

実践事例の紹介

学習プログラム：中原中也「また来ん春……」を用いた実践

1 ビデオを有効に活用する

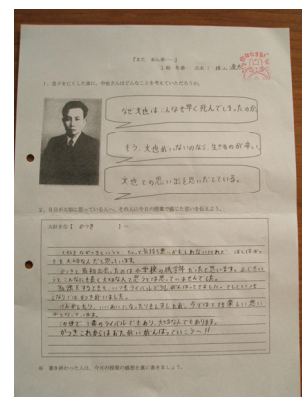
中原中也記念館の協力により、ビデオ『おおわが青春』を使用することができた。中心となる資料は、中原中也の作品「また来ん春……」であったが、詩を鑑賞するだけではなかなかとらえきれない、中原中也の人生を知ることができ、理解を深めるために有効であった。



2 提示するタイミングや方法を考える

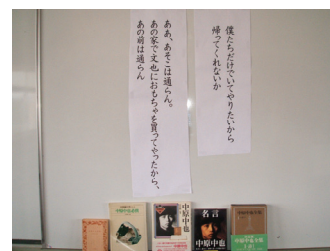
- 中原中也記念館所有ビデオ『おおわが青春』
- 中原中也の幼少期・青年期の写真数点
- 中原中也が息子の文也を亡くした後に話した言葉

これらの資料を用いて、ねらいとする「命の尊さ」に迫る工夫を試みた。視聴覚機器の活用では、中心的な資料の理解を助けるために提示するタイミングや方法を考えることが大切である。生徒の反応を予想したり、視聴覚機器の生かし方を工夫したりして、効果的に活用することが大切である。



3 使用する資料の著作権等に配慮する

授業で様々な資料等を使用する場合、著作権について考えておく必要がある。扱う資料によっては、出典を明らかにするなど、配慮が必要である。



視聴覚機器の活用

- ◎ 中心的な資料の内容から、登場人物の歴史的背景など、補足する事柄について確認し、補助資料を準備しましょう。
- ◎ 生徒の反応を事前に予想して、補助資料の提示の仕方を工夫しましょう。
- ◎ 中心的な資料と補助資料とをあわせて保管するなどして、全教師で活用できるようにしましょう。